

3-3 希少野生動植物保護事業

事業目的

希少な野生動植物の保護、啓発を図るため、継続的に希少野生動植物の変化など状況把握に努め、専門家による検討会議に諮るなどして保護保全策の検討に役立てます。
また、これまでの調査等で把握した希少野生動植物の生息地域等情報データを地図情報に落とし込み、環境調査等に活用できるようにします。

事業効果

CO2削減効果	—
その他(調査対象)	約1,000種

事業内容

【事業概要】

希少野生動植物の生息等に関する調査、生息地域等情報データの地図情報入力及び保護施策検討会の開催

【実施主体】 宮城県

【事業期間】 平成28～32年度

【平成28年度事業費】 2,986千円

宮城県レッドデータブック
2016掲載種数

区分	絶滅 (EX)	野生 絶滅 (EW)	絶滅危 惧Ⅰ類 (CR+ EN)	絶滅危 惧Ⅱ類 (VU)	準絶滅 危惧 (NT)	情報 不足 (DD)	絶滅のお それのある 地域個 体群(L P)	要注 目種	対象 種数
植 物	15	1	233	166	85	16		39	555
動 物	7		61	83	134	98	4	25	412
計	22	1	294	249	219	114	4	64	967

現 状

県内の希少野生動植物の生息等状況は、平成28年3月に「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」をとりまとめたが、希少野生動植物の状況は日々変化しており、その後の状況の変化を緊急かつ継続的に調査しデータを蓄積することが保護保全のためには必要。



アカヒレタビラ

税導入後のイメージ

希少野生動植物の生息等状況の継続的把握により、迅速な保護保全策の策定が可能となり、また、生息等情報を地図情報にまとめることで、環境アセスメント等に役立てることが可能となる。



イヌワシ